

財政健全化判断比率など

市では毎年度、財政指標を算定しています。令和元年度の決算に基づく健全化判断比率・資金不足比率は次のとおりで、早期健全化基準を下回っています。

■健全化判断比率 (単位：%)

	実質赤字	連結実質赤字	実質公債費	将来負担
令和元年度	— (13.06)	— (18.06)	7.3 (25.0)	43.6 (350.0)
平成30年度	— (13.07)	— (18.07)	7.3 (25.0)	48.9 (350.0)

※「—」は赤字額がないことを表しています。

※下段（ ）書きは、早期健全化基準

■資金不足比率

資金不足となった会計（水道事業会計・公共下水道事業特別会計・農業集落排水事業特別会計）はありません。

早期健全化基準…財政収支が不均衡な状況や財政状況が悪化した状況において、その財政の健全化を図るべき基準。4つの指標のうち1つでも基準以上になると「早期健全化団体」に指定されます。

実質赤字比率…地方公共団体の一般会計などの赤字の程度を指標化し、財政運営の深刻度を示すもの。

連結実質赤字比率…すべての会計の赤字や黒字を合算し、赤字の程度を指標化。全体としての財政運営の深刻度を示すもの。

実質公債費比率…借入金（地方債）の返済額などの大きさを指標化し、資金繰りの危険度を示すもの。

将来負担比率…借入金（地方債）や将来支払っていく可能性のある負担などの残高の程度を指標化。将来財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示すもの。

市債の状況（現在高）

会計名	平成30年度末	令和元年度末
一般会計	233億7,757万円	223億6,498万円
水道事業	26億1,443万円	27億6,654万円
公共下水道事業	42億9,507万円	41億4,911万円
農業集落排水事業	19億8,216万円	18億8,401万円
一部事務組合分	69億9,666万円	66億1,489万円
合計	392億6,589万円	377億7,953万円

市の家計簿チェック

つくばみらい市の令和元年度一般会計決算を、年間600万円（月50万円）の生活をしている家庭に例えて、1カ月分の家計簿を作ってみました。

28家族で稼いだお金
28万1,000円

毎月の収入

お父さんの給料（市税）	217,500円
お母さんのパート収入 （使用料・手数料など）	37,000円
貯金引き出し（繰入金）	26,500円
実家からの援助 （地方交付税・国庫支出金など）	198,500円
ローン借り入れ（市債）	20,500円
収入合計	500,000円

※わかりやすくするために1カ月分で作成しましたが、一般会計と対比するためには、年間収支での比較となります。

毎月の支出

食費（人件費）	82,500円
医療費（扶助費）	104,000円
光熱費・洋服代（物件費）	79,500円
車や家具の修理代（維持補修費）	3,000円
兄への仕送り （他会計への繰入金・補助費・貸付金など）	129,000円
家の増改築（投資的経費）	29,500円
ローン返済（公債費）	50,000円
貯金（積立金）	9,500円
支出合計	487,000円

生活費
39万8,000円

◎翌月への繰越（収入・支出の差引） 13,000円

【市民1人の歳出額】

1人あたり 36万1,102円

令和元年度の一般会計歳出額を令和2年3月末現在の人口5万1,930人で割ったおおよその金額です。

農林水産業費 13,913円



農業振興などの費用

衛生費 21,130円



健康診断、ごみ処理、放射能対策などの費用

民生費 133,913円



福祉、子育て支援などの費用

総務費 36,905円



市役所管理などの費用

その他 12,184円



議会運営、商工振興などの費用

公債費 37,374円



借入金（市債）の返済金

教育費 51,204円



学校、公民館、図書館などの費用

消防費 18,214円



消防、防災などの費用

土木費 36,265円



道路、公園、都市計画などの費用